

近世港町小木における歴史的建造物の残存状況および外観特性

Remaining Condition and Characteristic of Historic Buildings in OGI early Modern Port Town

○會田千春*¹

Chiharu KAITA

鈴木紘太*²

Kohta SUZUKI

岡崎篤行*³

Atsuyuki OKAZAKI

本研究では、新潟県佐渡市小木における歴史的建造物の残存状況と外観特性を明らかにすることを目的とする。対象地において全建造物を外観から悉皆調査を行った結果、全建造物 874 棟を確認し、262 棟を歴史的建造物と推定した。全体の残存率は 30% で、そのうちの約 8 割が町屋であった。町屋の形態については 5 種類に分類でき、最も多かったのは縦長横屋・普通 2 階で全体の 51% を占める。一部の地区では、横屋と豎屋が混在した町並みが見られる。

Keywords *Early Modern Ages, A Port Town, Historic Buildings, Remaining Condition, Townhouse*

近世、港町、歴史的建造物、残存状況、町屋

1. 研究の背景と目的

佐渡市小木は 1615 年(近世初期)に計画的につくられた港町で相川金銀の積出港、北前船の幕府公式寄港地として発展した重要な場所である。また現在、佐渡島を世界遺産に登録しようと様々な研究がなされており、小木の町も資産の構成に含まれる可能性があると考えられる。しかし、小木では歴史的建造物⁽¹⁾の面的保全は行われていない。また、小木の町屋の内部空間についての研究⁽¹⁾はあるが、歴史的建造物の全体像は明らかとなっていない。したがって、今後歴史的な町並みとして景観整備を行っていくうえでも、全体像を把握することは重要であると考えられる。そこで、本研究では外観より歴史的建造物と推定できる建造物の残存状況および細部意匠や配置形態等の外観特性を明らかにする。

2. 研究方法

研究方法として、①歴史的資料や地図、ヒアリングを基に街路変遷や町場の形成過程から戦前の町場の範囲を

把握し、地勢や歴史も踏まえて調査範囲を決定する。②調査範囲において全建造物の悉皆調査を行い、外観およびヒアリングより歴史的建造物と推定される建造物を抽出する。③抽出した歴史的建造物に関して、配置や形態、細部意匠などに関する項目を調査し、その結果より歴史的建造物の外観の種類と特性を分析・考察する。

3. 歴史的建造物の残存状況

調査範囲は 18 の町内で形成され、そこにおける全建造物 874 棟(主屋 732 棟、主屋以外 142 棟)を調査し、主屋 216 棟、主屋以外 46 棟の合計 262 棟が歴史的建造物であると推定した。残存率は全体で 30%、地区別に見ると本町の 65% が最も高く、次に中町・末広町が 53% となっており、全体の主屋残存率は 30% となった。本町通り沿いの地区において残存率が高く、特に主屋残存率の点から見ても本町、中町、末広町は重要な地区であると言える(図 1)。既往研究により残存率が明らかにされている県内の町場と比較すると、小木が一番高く重要な町である。

*1 新潟大学大学院自然科学研究科 博士前期課程

Grad. Student, Grad. School of Science and Teach., Niigata Univ.

*2 積水ハウス株式会社

Sekisui House, Ltd.

*3 新潟大学工学部建設学科・准教授(工学博士)

Assoc. Prof., Dept. of Civil and Architecture, Faculty of Eng., Niigata Univ., Dr. Eng.

4. 歴史的建造物の特性

歴史的建造物 262 棟のうち戸建て 216 棟を接道(接道半接道 非接道)・接隣(接隣 半接隣 非接隣)・玄関面の条件から分類し、最も多い町屋 201 棟において外観デザイン⁽³⁾から5つのタイプが抽出できた(表1)。最も多いのは縦長横屋・普通2階型(図2)で51%を占めている。また、一部の町内には縦長堅屋(図3)が見られ、基本が横屋である町に堅屋が混ざるとは、県内で調査済みの範囲内においては珍しく、貴重である。特徴的な細部意匠としてはガラス戸袋・ガラス雨戸(図4)、飾り窓などが見られた。

5. 結論

- (1)歴史的建造物の残存率は、既往研究により明らかである県内の町場と比較すると一番高く、重要な町である。特に本町、中町、末広町の3町内が重要地区といえる。
- (2)横屋の町であるといえる。しかし、一部町内では混在の町並みが見られる。基本が横屋である町に堅屋が混ざるとは、県内で調査済みの範囲では珍しく貴重である。
- (3)敷地割りが旧態をよく残しており、歴史的建造物を含め内の潤や金銀輸送路などの地域的特色を顕著に示す周辺環境もあるため、面的保全の価値があるといえる。

表1 町屋の外観デザインによる分類

類型	縦長横屋 普通2階 104棟 51%	縦長横屋 張出2階 51棟 25%	縦長横屋 平屋 12棟 6%	縦長堅屋 普通2階 9棟 5%	縦長堅屋 張出2階 17棟 9%
外観パース					
立地	通り	通り 小路	通り	通り	通り 小路
優勢地区 (主屋2階)	末広町 (15棟) 中町 (11棟)	旭町 (8棟) 上町 稻荷町 (各6棟)	山本町 (5棟) 旭町 (2棟)	旭町 (3棟) 泉町 登町 (各2棟)	泉町 (6棟) 諏訪町 登町 旭町(各2棟)
下屋	前下屋16棟 横下屋1棟	前下屋2棟	横下屋1棟	前下屋3棟	前下屋4棟 横下屋1棟
2階高比	高 7棟 6%	2棟 4%		1棟 11%	0棟
	中 79棟 76%	44棟 86%		8棟 89%	15棟 88%
	小 18棟 18%	5棟 10%		0棟	2棟 12%

1階部分に対する2階の高さの比 (小<中<1.0<高)

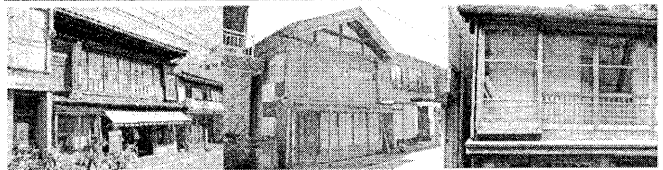


図2 横屋・普通2階 図3 縦長堅屋 図4 ガラス戸袋・雨戸

【補注】

- (1) 本研究では「第2次世界大戦以前に建てられた建造物」と定義する。
- (2) 主屋全棟数に対して、歴史的建造物の主屋棟数が占める割合
- (3) 本研究では、外形、棟の向き、階数、2階形態によって分類する。

【参考文献】

- 1) 長谷川 崇, 佐渡市小木の町屋における室空間構成に関する研究—神棚による階段の付き方に着目して—, 新潟大学工学部建設学科卒業論文, 2006. 2
- 2) 長坂 一雄, 佐渡 島社会の形成と文化, 雄山閣出版, 1977
- 3) 宮本 雅明, 都市空間の近世史研究, 中央公論美術出版, 2005

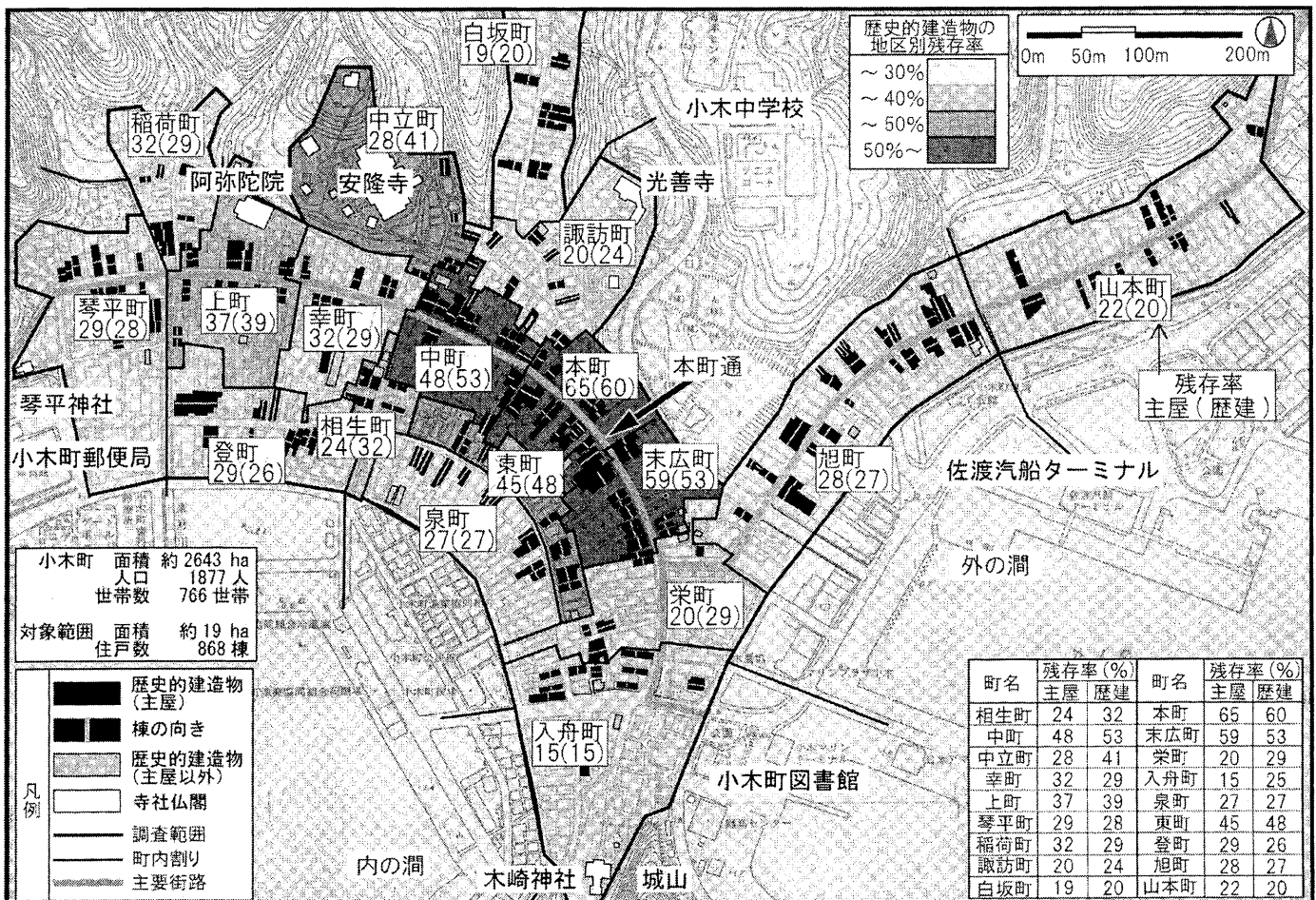


図1 歴史的建造物の残存状況